



Customize Feature Guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 日本語版

作業環境カスタマイズ 機能ガイド(応用編)

(2016/10/07 最終更新)



1 はじめに

このドキュメントでは、**Enterprise Architect** を利用して作業を行う場合に、より快適に作業を行うためのカスタマイズ可能な項目について説明します。なお、カスタマイズできる項目は非常に多いため、基本的な項目を説明する「基本編」と、より広い範囲についてカスタマイズできる「応用編」に分けて説明しています。

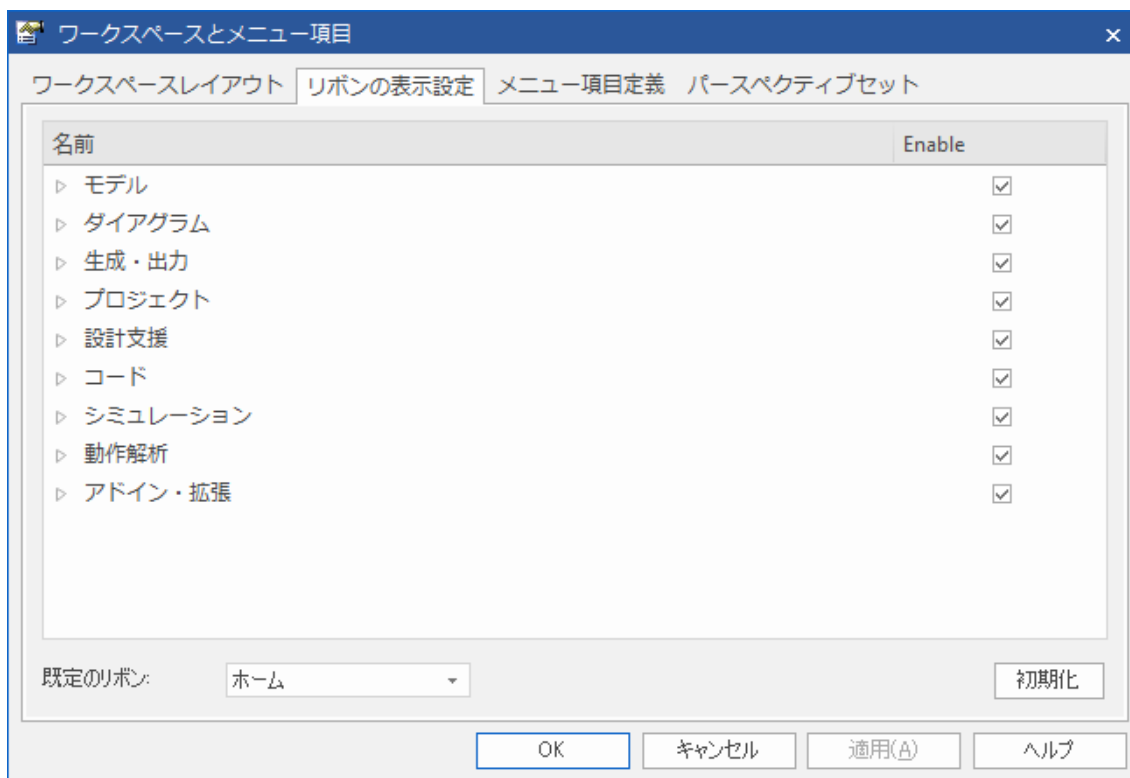
この応用編では、基本編で紹介していないカスタマイズの内容について説明します。また、カスタマイズした内容をチーム内で共有する方法を説明します。

なお、このドキュメントは、**Enterprise Architect 13.0** ビルド 1304 を元に記載しています。バージョン・ビルドが前後する場合には、内容が異なる場合があります。

2 リボン

Enterprise Architect バージョン 13.0 からは、**Microsoft Office** や **Windows** では、メインメニューの各項目についても編集することができます。使わないメニュー項目を削除したり、項目の順序を並び替えたりすると便利になります。

「ホーム」リボン内の「画面構成」パネルにある「設定」ボタンを押すと表示されるメニューから「ワークスペースとメニュー項目」を選択します。ワークスペースとメニュー項目画面が表示されますので、「リボンの表示設定」のタブを選択してください。



非表示にするパネルあるいはリボン全体について、右端のチェックボックスのチェックを外してください。

また、「既定のリボン」を指定することで、**Enterprise Architect** を起動した際に最初に開かれているリボンを変更することができます。

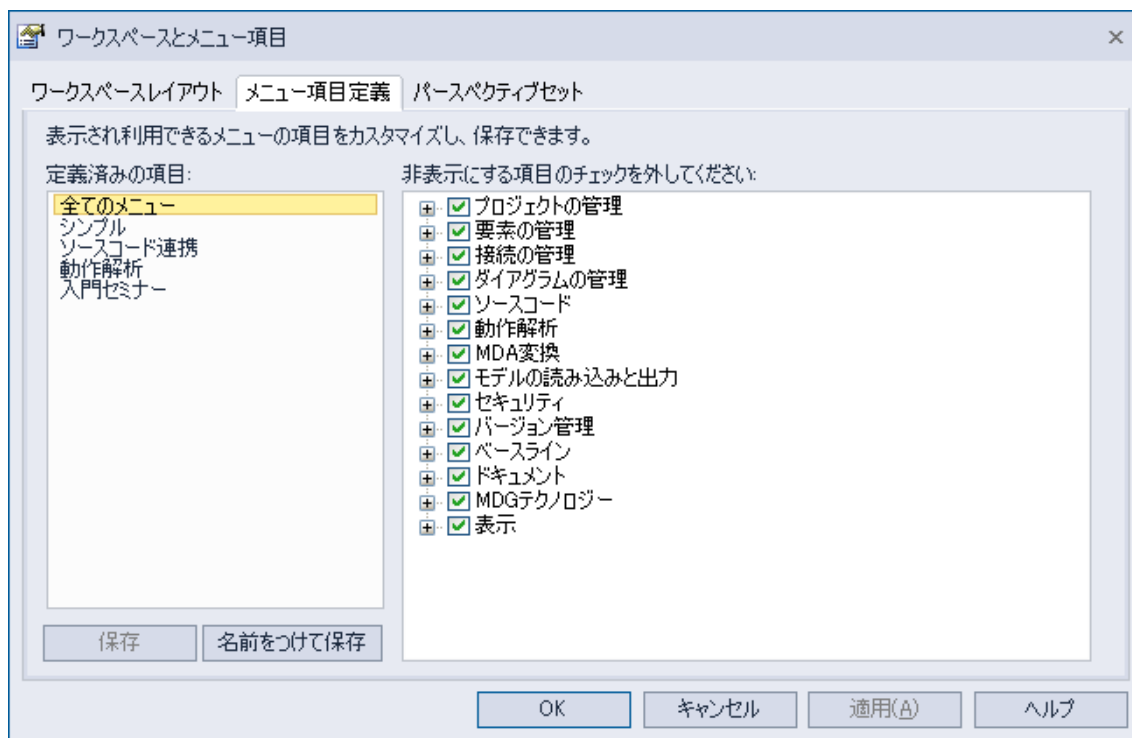
それぞれのリボン・パネルの内容を自由にカスタマイズしたり、独自のリボンを追加したりすることはできません。

3 コンテキストメニュー

Enterprise Architect バージョン 13.0 ではメインメニューはリボンに置換されましたが、プロジェクトブラウザやダイアグラム内のコンテキストメニューは過去のバージョンと変わりません。これらの内容をカスタマイズすることができます。

なお、非表示にしたメニュー項目については、ショートカットキーも無効になりますので、意図せず機能呼び出ししてしまうことも防ぐことができます。

「ホーム」リボン内の「画面構成」パネルにある「設定」ボタンを押すと表示されるメニューから「ワークスペースとメニュー項目」を選択します。ワークスペースとメニュー項目画面が表示されますので、「メニュー項目定義」のタブを選択してください。



この画面では、定義済みのメニュー項目定義を選択して適用したり、新規に独自の定義を追加することができます。

独自の定義を追加する場合には、カスタマイズする元になる項目を一覧から選択します。その後、右側の設定画面で、表示する項目にチェックを入れ、表示しない項目のチェックを外します。編集が完了したら「名前をつけて保存」ボタンで編集内容を保存してください。

定義した内容は、保存したマシンのユーザーごとのデータ保存領域(%APPDATA%\Sparx Systems\EA)に、「UserPerspective.xml」という名前で保存されます。メニュー項目の定義画面の一覧で項目を右クリックすると表示されるメニューから、定義の内容の「出力」「読み込み」を実行することで、他の利用者に設定データを渡すことができます。

4. リボンの「独自に追加したツール」

「プロジェクト」リボン内の「独自に追加したツール」には、任意の実行ファイルを項目として追加することができます。下の例では、2つのプログラムが追加されています。

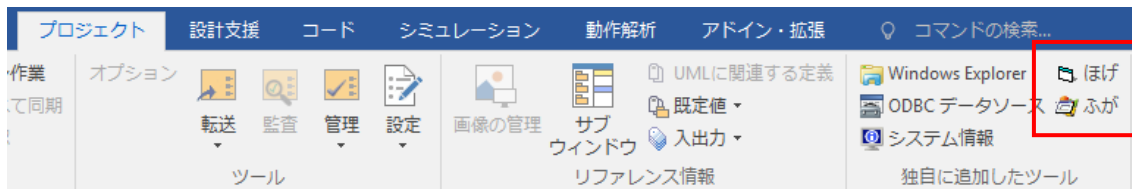
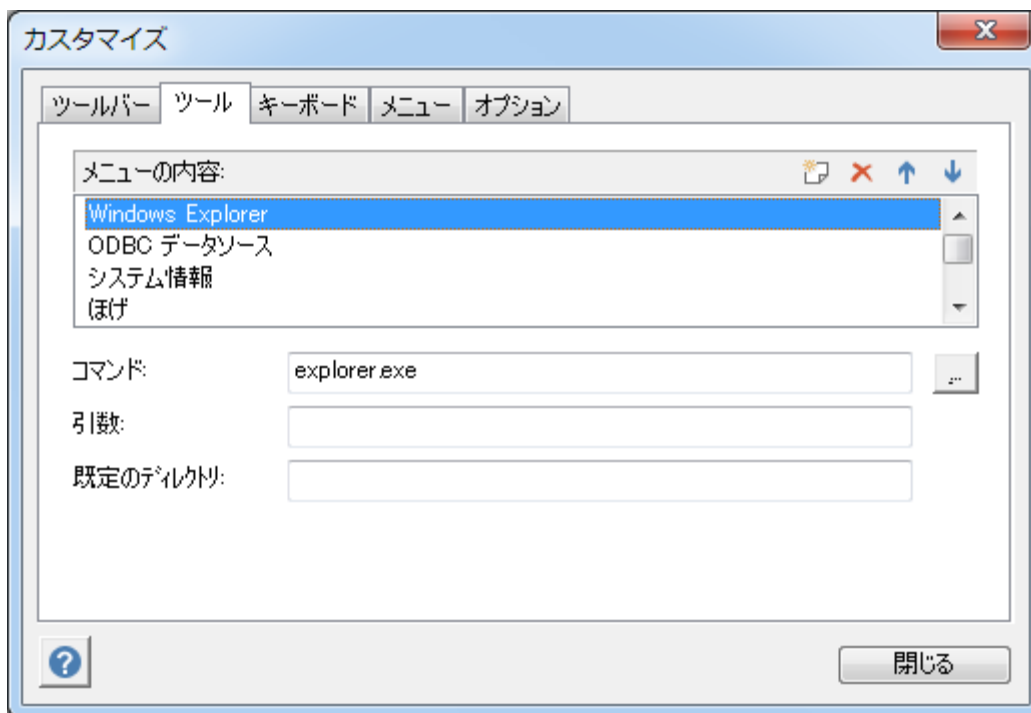







図 15

この設定を変更するには、「ホーム」リボン内の「オプション」パネルにある「カスタマイズ」ボタンを押します。表示される画面で「ツール」タブを選択します。次の図のような画面が表示されます。



画面の右上にある     の4つのボタンが、項目を操作するためのボタンです。左から、「新規作成」「削除」「上に移動」「下に移動」となります。まずは、一番左のボタンを押して項目を1つ追加します。すると、名前が入力できるようになりますので、名前を設定します。その後、 ボタンを押して実際に呼び出すファイルを指定します。また、必要に応じて引数や既定のディレクトリを指定します。

引数には、現在開いているプロジェクトブラウザのファイル名などを指定できます。例えば、**\$f** を指定すると、プロジェクトファイルのフルパスが渡されます。別のアプリケーションから API などでも **Enterprise Architect** のモデルの内容を参照・編集する場合に便利です。

(指定可能なオプションについてはヘルプファイルをご覧ください。)

以上の操作で、メインメニューに項目が追加できます。モデリング時に呼び出す他のツール類を登録しておくとも便利です。

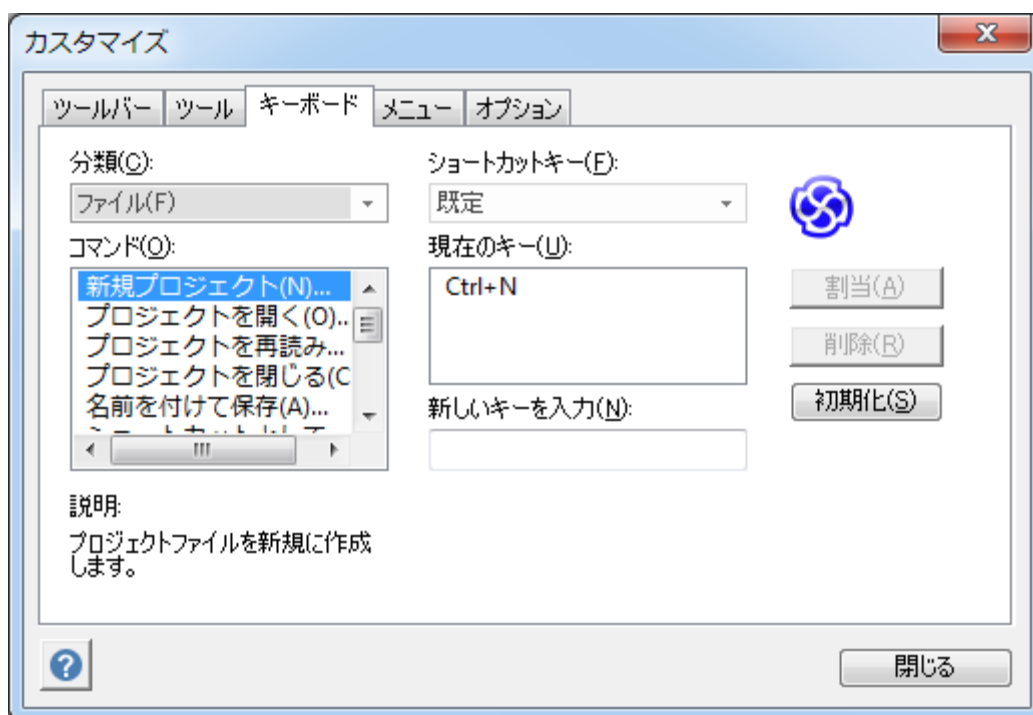
5. ショートカットキー

Enterprise Architect では、既定値で多くのショートカットキーが設定されています。これらのショートカットキーの多くは、希望するキーに変更することができます。ショートカットキーを変更するには、「ホーム」リボン内の「オプション」パネルにある「カスタマイズ」ボタンを押します。表示される画面で「キーボード」のタブを選択します。この画面で、ショートカットキーが設定可能な機能に対して任意のショートカットキーを設定できます。

左上の「分類」から大分類を選択後、「コマンド」の一覧に表示される機能を選択してください。選択した機能に割り当てられているキーが「現在のキー」欄に表示されます。

「新しいキーを入力」欄でキーを入力した後に「割当」ボタンを押すことで、ショートカットキーを割り当てることができます。なお、入力したキーに既に対応する機能が割り当てられている場合には、その内容が表示されます。キーは、Alt キー・SHIFT キー・Ctrl キーと通常のキーを組み合わせで指定することができます。

なお、いくつかのキーの組み合わせについては、**Enterprise Architect** 内では固定で設定されているため、変更することはできません。この場合には、「説明」部分には「????」と表示され、「割当」ボタンが有効になりません。



現在設定されているショートカットキーの一覧を確認するためには、「ホーム」リボン内の「ヘルプ」パネルにある「ヘルプ」ボタンを押すと表示されるメニューから「ショートカットキーの一覧」を選択すると表示されるショートカットキー一覧画面が便利です。



6. カスタマイズしたデータの共有

この章では、カスタマイズしたデータや設定を他の利用者の環境でも利用する方法について、説明します。

Enterprise Architect ではさまざまなカスタマイズ・設定を行うことができます。こうした情報は、次の3カ所のいずれかに格納されています。

- レジストリ
- プロジェクト(EAP ファイルや DBMS リポジトリ)
- Windows の特定のフォルダ

以下、それぞれの内容について説明します。

レジストリ

レジストリに格納されている内容は、以下の項目です。

- ・ 現在の画面のレイアウト
- ・ ユーザーのオプション画面で設定できるオプション項目
- ・ 最近利用したプロジェクト
- ・ 「ツール」として設定した内容
- ・ ツールボックスの表示設定
- ・ ファイル検索機能で設定した値
- ・ 利用可能なアドイン

このうち、利用可能なアドインの情報は、`HKEY_CURRENT_USER\Software\Sparx Systems\EAAddIns`(ログインユーザーのみ)あるいは `HKEY_LOCAL_MACHINE_USER\Software\Sparx Systems\EAAddIns`(全てのユーザー)に格納されています。独自に開発したアドインを利用する場合などは、このキーに情報を追加する必要があります。

それ以外の情報は、`HKEY_CURRENT_USER\Software\Sparx Systems\EA400\EA`以下に格納されています。例えば、オプションに関する情報は `HKEY_CURRENT_USER\Software\Sparx Systems\EA400\EA\OPTIONS` に格納されています。

プロジェクトファイル

プロジェクトファイルに格納されている情報は、次の2つです。

- ・ プロジェクトのオプション画面で設定できるオプション項目
- ・ リファレンス情報

「リファレンス情報」とは、プロジェクトに関する様々な情報の総称です。「プロジェクト」リボン内の「リファレンス情報」パネルで設定できる項目が含まれます。これらの設定内容は、「リファレンス情報」として XML ファイルの形で出力できます。このファイルを別のプロジェクトファイルで読み込むことで、情報を移行することができます。

Windowsの特定のフォルダ

以下の情報は、Windows での特定のフォルダに、ファイルとして格納されます。

- ・ チームレビューの既読履歴
- ・ 独自に定義した検索ルール

作業環境カスタマイズ 機能ガイド

- 独自に定義したワークスペースレイアウト
- ビューブラウザサブウィンドウの「自分のビュー」の内容
- ローカルパスの設定
- メニュー項目定義
- エディタの設定
- デバッグ機能やシミュレーション機能におけるブレークポイントの設定
- MDG Integration など他のアドインの設定項目

これらの情報は、Windows のアプリケーション情報を保存するディレクトリ(%APPDATA%)の下に格納されます。例えば、Windows XP でユーザー名が USERNAME の場合には、C:\Documents and Settings\USERNAME\Application Data\Sparx Systems\EA に格納されます。Windows7 の場合には、C:\Users\ USERNAME \AppData\Roaming\Sparx Systems\EA になります。

これらの内容は、ファイルとして別のユーザーにコピーすることで、設定情報を共有することができます。

○改版履歴

2010/04/16 ドキュメントを2つに分割。Enterprise Architect バージョン 8.0 リリースに伴い、画像および内容を更新。6章を追加。

2011/05/18 Enterprise Architect バージョン 9.0 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2012/01/13 Enterprise Architect バージョン 9.2 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2012/03/07 Enterprise Architect バージョン 9.3 リリースに伴い、画像および内容を更新。
メニュー項目定義の説明を追加。

2012/12/14 Enterprise Architect バージョン 10.0 リリースに伴い、内容を更新。

2015/02/12 Enterprise Architect バージョン 12.0 リリースに伴い、内容を更新。

2016/10/07 Enterprise Architect バージョン 13.0 リリースに伴い、内容を更新。